

Platinum Series 3G

ユーザーマニュアル



はじめに

この度は Monitor Audio / Platinum Series 3Gをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本取扱説明書には、本機設置や操作について重要な情報が含まれています。

本説明書をお読みの上、設置や操作の詳細について充分にご理解いただき、正しくご使用の上、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

付属品

箱から商品を取り出して、中身を確認してください。
欠品がありましたら、直ちにお買い上げいただいた販売店に連絡してください。

●Platinum 300, 200 3G

- Tool Box × 1
(クリーニング・クロス×1、六角レンチ[6mm]×1、トルクスビットドライバー[T80]×1)
- バスレフポート用スポンジ×2組 (1組 = ×2ヶ)
- スパイク×2組 (1組 = ×4ヶ)

●Platinum 100 3G

- Tool Box × 1
(クリーニング・クロス×1、六角レンチ[6mm]×1、トルクスビットドライバー[T80]×1)
- バスレフポート用スポンジ×2
- ゴム脚×8

●Platinum C250 3G

- Tool Box × 1
(クリーニング・クロス×1、六角レンチ[6mm]×1、トルクスビットドライバー[T80]×1)

目次

スピーカーの開封	2
スパイクおよび脚部	3
スピーカーシステムのセットアップ	5
スピーカーの配線	8
スピーカーの使用	9
お手入れとメンテナンス	10
Specifications	11
保障	11

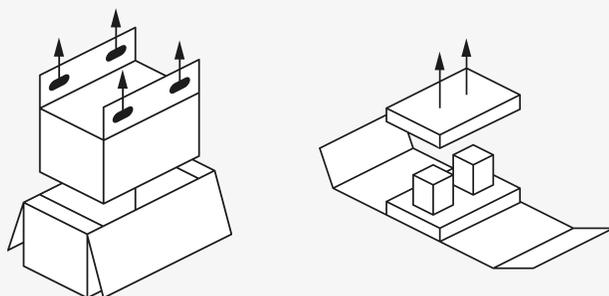
スピーカーの開封

スピーカーを開封する前に、清潔で、十分な広さの床を確保してください。

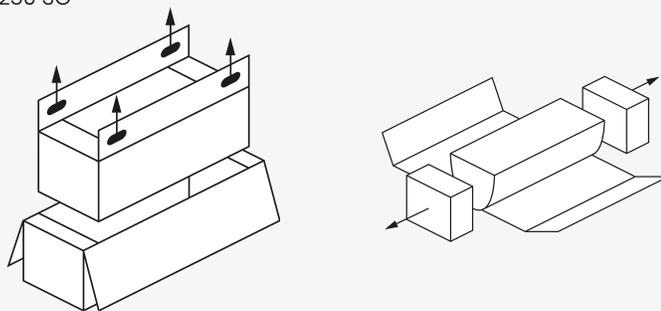
 **警告:スピーカーは1人で持ち上げないでください。**
必要推奨人数は、外側の段ボール箱に印刷されています。

床に箱を寝かせ、開放部が横向きでかつ上向きになるようにします。外側の段ボール箱を開け、内側の段ボール紙スリーブのハンドルを使い、ラウドスピーカーとパッケージを持ち上げて箱から出します。ポリスチレンのエンドキャップを取り外し、脚部/スパイクがある場合は取り付けます。「スパイクおよび脚部」セクション(3ページ)を参照してください。

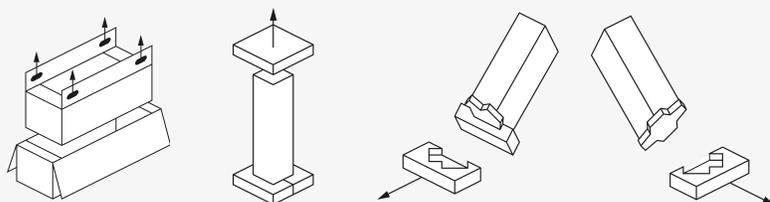
Platinum 100 3G



Platinum C250 3G



Platinum 200 & 300 3G



スパイクおよび脚部

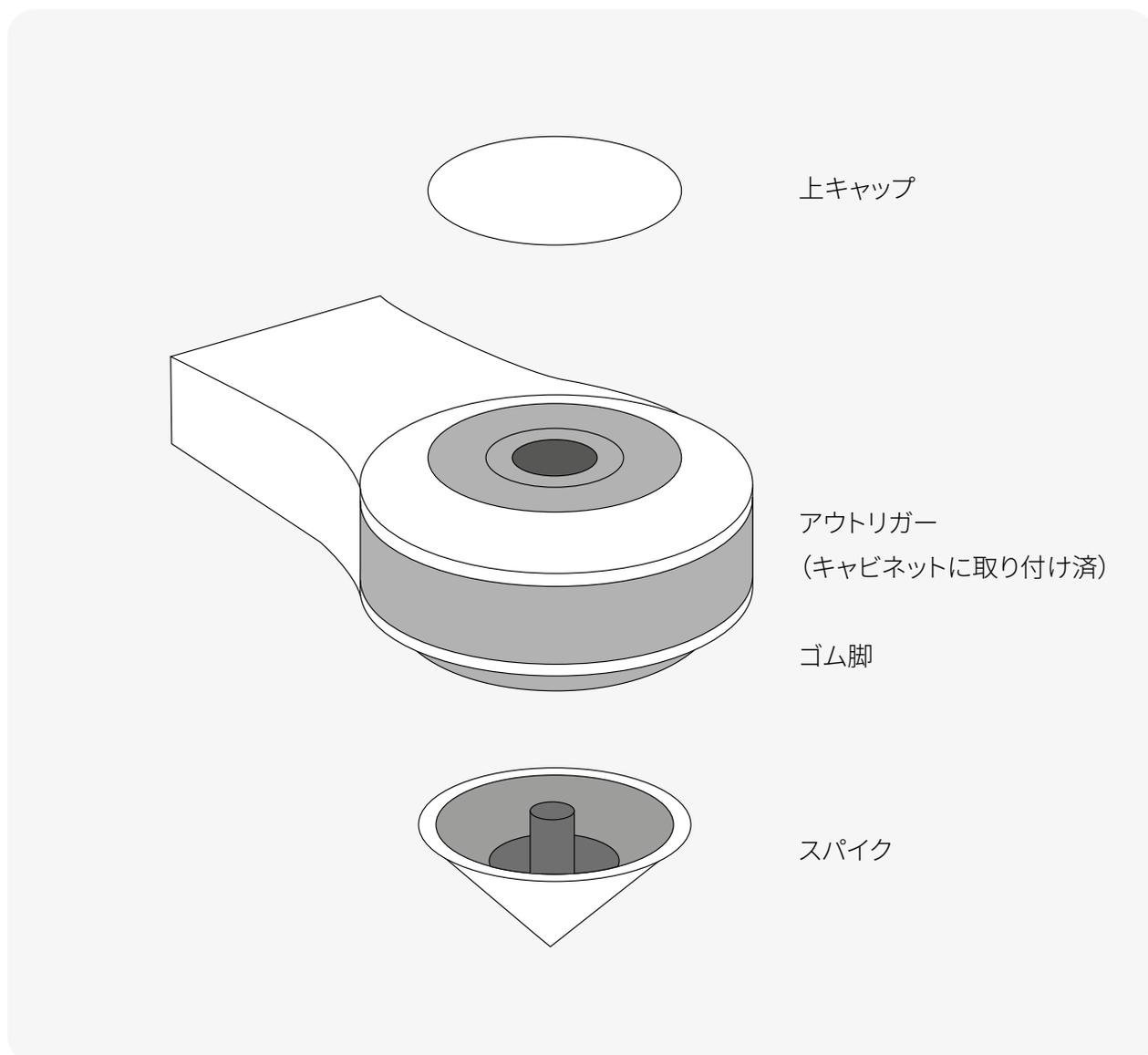
フローリングや硬質床の場合

アウトリガー（張り出し）は、カーペットが敷かれておらず、スパイクの使用が適切でないフローリングや硬質床で用いるために、事前に組み立てられた状態で発送されています。ラウドスピーカーを所定の位置へ置き、水平で安定していることを確かめるだけで済みます。

カーペットを敷いた床の場合

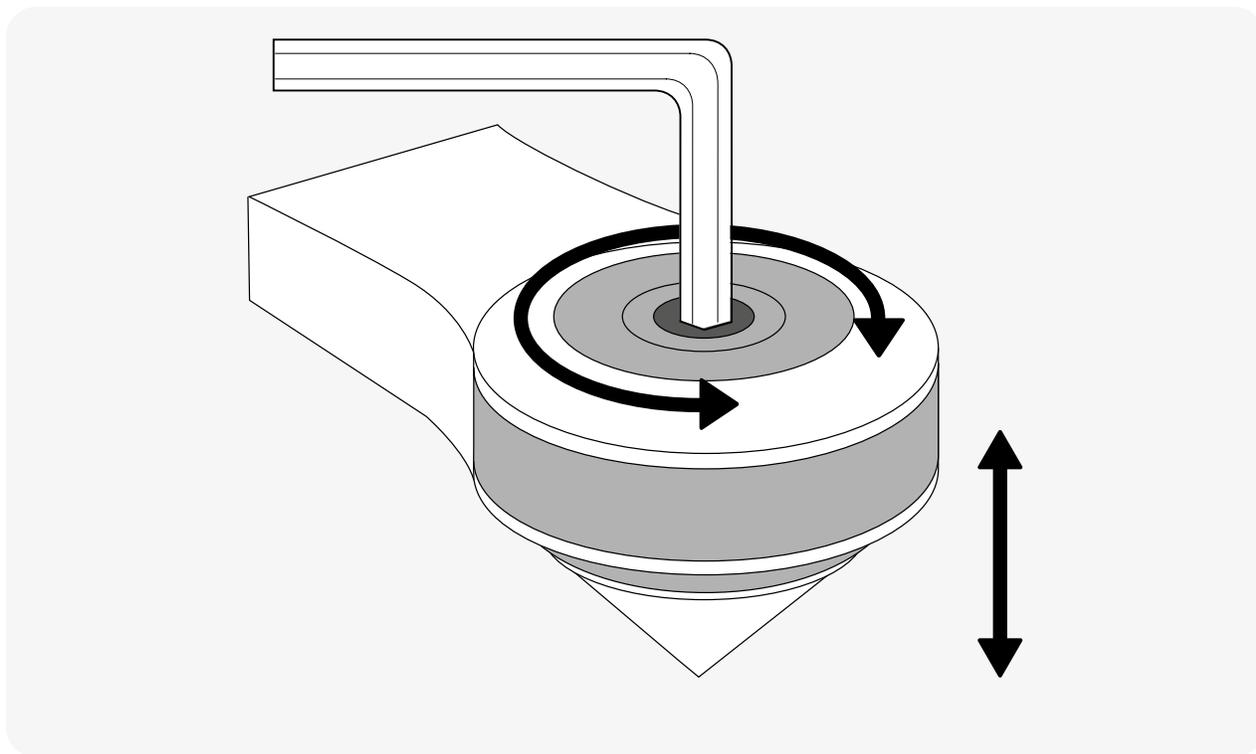
ラウドスピーカーをカーペット上に設置する場合は、スパイクを脚部とアウトリガーにねじ込んでください。ラウドスピーカーを所定の位置へ置き、水平で安定していることを確かめてください。

 カーペットの下に配線が隠れていないか確認してください。スパイクにより傷つくことがあります。



スピーカーの水平化

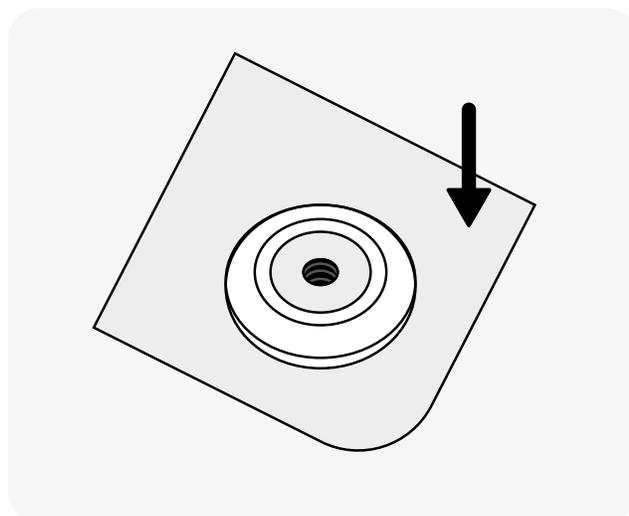
水準器 (付属していません) を使用して、スピーカーの全側面が水平であるかを確認できます。わずかでも水平でない場合は、磁石で固定された上キャップを外し、付属の六角レンチを使用して、図の要領で最も低い位置で脚部を緩め、再度確認してください。キャビネットが完全に水平になるまでこの作業を繰り返した後、上キャップを再び取り付けます。



Platinum 100 3Gの脚

Platinum 100 3Gには8本の粘着式ゴム脚が同梱されています。

スピーカーで他社製のスタンドを使用したり、スピーカーを棚へ配置する場合、キャビネット底面の窪みに合わせて取り付けてください。



スピーカーシステムのセットアップ

2チャンネルシステム

2チャンネルシステムを配置する際には、リスニングポジションとラウドスピーカーが正三角形を形成する必要があります。ラウドスピーカーは、互いに約1.8~3m (6~10ft) 離し、側面の壁からは91cm (3ft)以上離して、設置してください。背後の壁からの理想的な距離は、ラウドスピーカーにより異なります(下のリストを参照)。

Platinum 100 3G	15~30cm (6~12")
-----------------	-----------------

Platinum 200 3G	20~36cm (8~14")
-----------------	-----------------

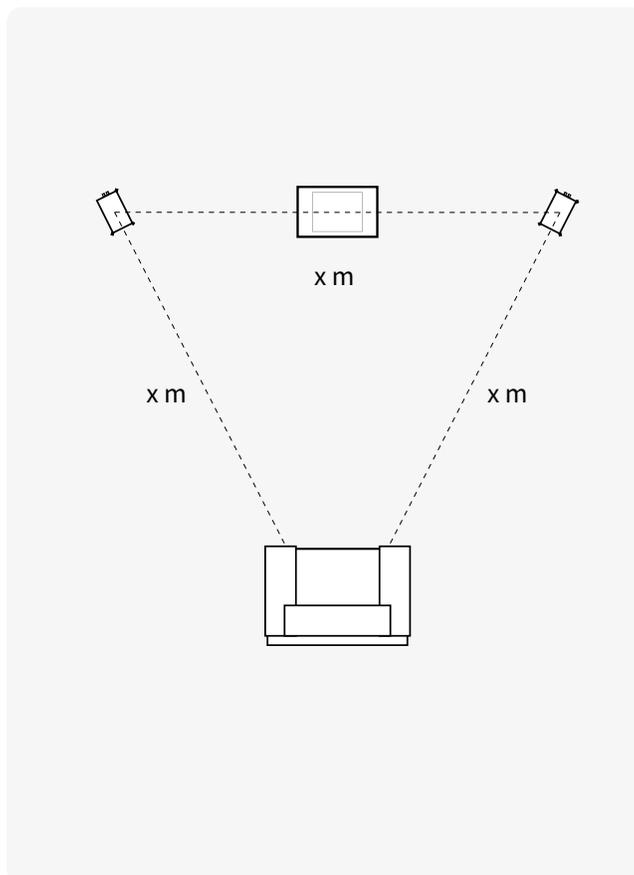
Platinum 300 3G	30~61cm (12~24")
-----------------	------------------

注意:これは、最適なパフォーマンスを実現するために推奨される距離です。

ただし、実際の結果は、部屋の大きさや構造、および個人の好みにより異なります。

周囲環境や個人の好みは設置ごとに異なるため、ラウドスピーカーをセットアップするにはまず試されることを強く推奨します。

たとえば、低音域が不足する場合には、ラウドスピーカーを背面の壁に近づけてみてください。また、低音域が強すぎる場合には、逆にラウドスピーカーを壁から遠ざけることをお勧めします。また、9ページに記載されているポート栓の情報も参照してください。ステレオ感が失われている場合には、スピーカーの位置をやや「内向け」にしてください。各チャンネル均等に録音されたサウンドは、スピーカーの中央から発せられるように聞こえるはずですが、



スピーカーシステムのセットアップ

AVサラウンドシステムの位置決め

サラウンドシステムにおける各ラウドスピーカーの適切な角度と位置については、右の図を参照してください。ラウドスピーカーは、ラウドスピーカー要件に従って壁から離す必要があります。これについては、2チャンネルの位置決めセクションでリストアップされています。ただし、AVレシーバーのクロスオーバーフィルター設定が原因で、壁に近づけて配置される場合があります。試しながら調整することをお勧めします。

注意: 画像は、参考用のみです。右の図をご覧ください。

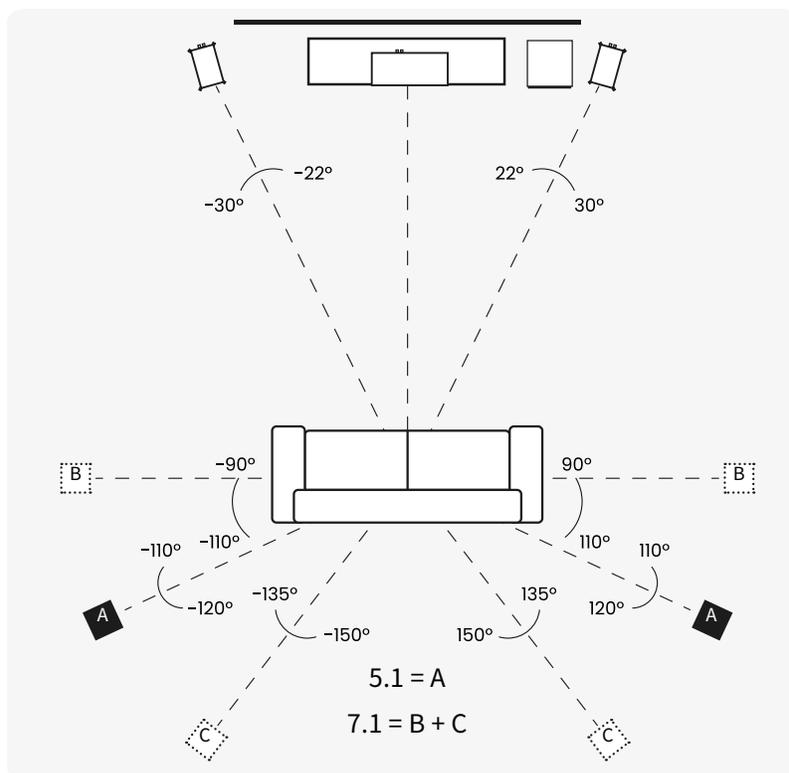
5.1システムをセットアップする場合は、ポジション (A) にサラウンドを配置することができます。

7.1 サラウンドシステムをセットアップする場合は、サイドスピーカーをポジション (B) に、リアスピーカーをポジション (C) に配置し、完全な360°サウンドステージを作り出してください。

音楽を再生する際(サブウーファーなし)に、低音が強すぎる場合や、低音の共振が部屋に響きすぎる場合は、スピーカーを少し壁から離してみてください。サブウーファーが搭載されたシステムでは、ラウドスピーカーやサブウーファーのクロスオーバー周波数設定を調整してください。また、サブウーファーの位置の変更も試してみてください。サブウーファーを部屋の隅に配置すると、部屋のモードによっては強く刺激しすぎる場合があります。

システムの低音が足りない場合は、AVレシーバーで設定されているスピーカーのサイズを確認してください。自動セットアップでラウドスピーカーの割合が大きい場合は、小さくしてみてください。サブウーファーへより多くの低音周波数が送られます。また、ラウドスピーカーとサブウーファーのクロスオーバー周波数、および個別チャンネルのレベルを確認してください。

Platinum C250センターチャンネルは、視覚位置に向き、ほぼ耳の高さになるように位置付ける必要があります。

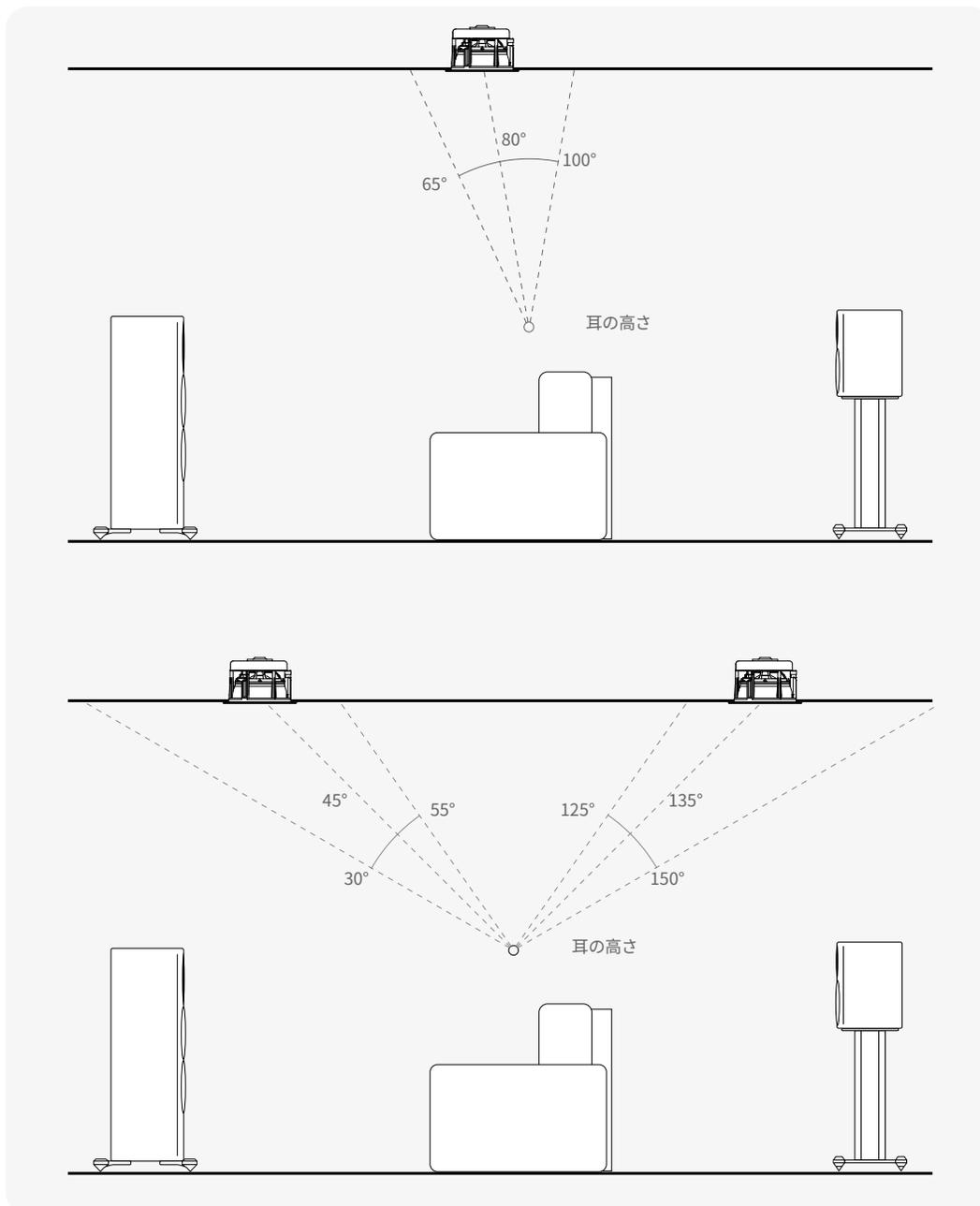


スピーカーシステムのセットアップ

Dolby Atmos®

Dolby Atmos®システムのオーバーヘッドチャンネルの設置では、弊社の3ウェイ天井埋め込みスピーカー (Platinum PLIC IIラウドスピーカーなど) の使用をお勧めします。これらのスピーカーは独自のミッドレンジ/ツイーターモジュールを装備しており、より幅広い分散特性を持つため、Dolby Atmos®に最適です。

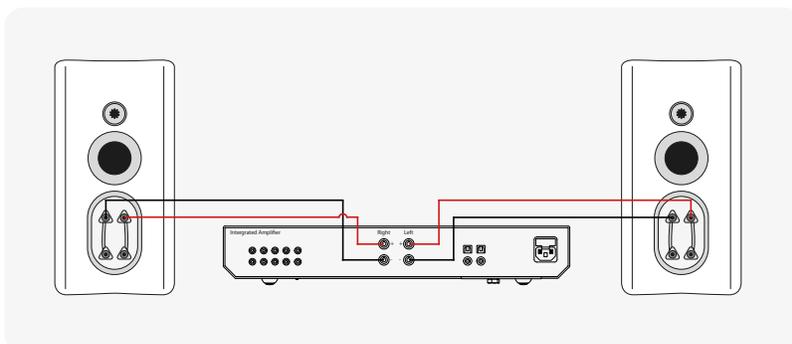
次の図は、2または4 Dolby Atmos®ラウドスピーカーシステムの理想的な配置です。通常は、前面左と前面右のラウドスピーカーと一列に配置されます。



シングルワイヤリング

シングルワイヤリングは、ラウドスピーカー背部のターミナルに単一ケーブル式を使用することで行えます。内部のラウドスピーカークロスオーバーは、周波数を適切なドライバー/ツイーターに導きます。低周波数を低ドライバーに、中間周波数を中/低ドライバーに、高周波数をツイーターに導きます。

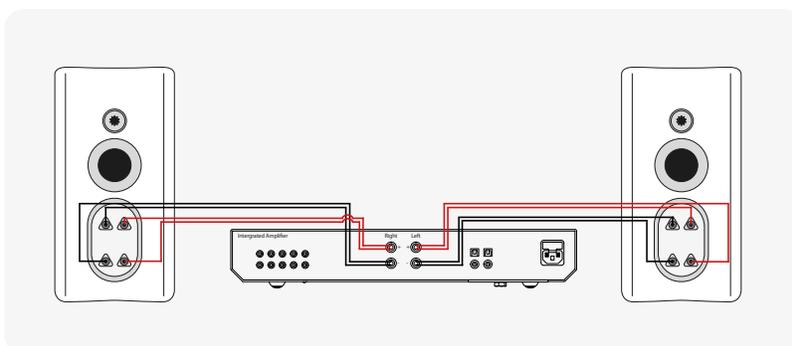
⚠ 注意:この方法を使用する際には、ターミナルリンクを接続する必要があります。



バイワイヤリング

バイワイヤリングは、個別のペアのラウドスピーカーケーブルを、アンプの単一ペアのコネクタからラウドスピーカーの端子に接続することで行えます。Platinumシリーズの場合、下部端子は低ドライバーに接続し、上部端子はツイーター (2ウェイラウドスピーカー)、または3ウェイラウドスピーカーの中ドライバー/ツイーターに接続します。

⚠ 注意:この方法を使用する際には、ターミナルリンクを取り外す必要があります。

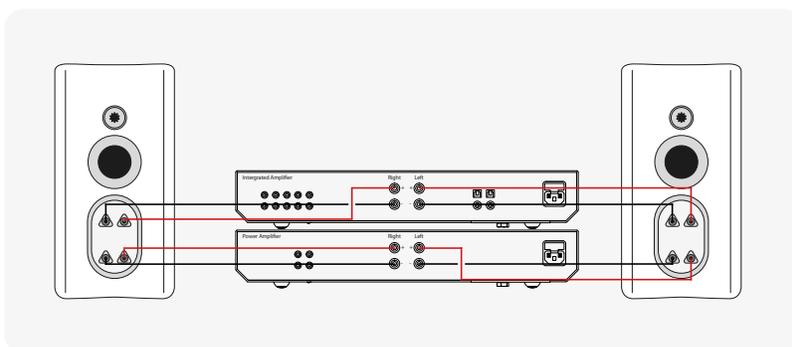


バイアンプング

バイアンプングは、第2のアンプを導入することを除き、バイワイヤリングと同じです。

バイアンプングするには、第1のアンプからラウドスピーカーの上部端子に一式のラウドスピーカーケーブルを接続し、第2のアンプから下部端子に別の一式のラウドスピーカーケーブルを接続する必要があります。

⚠ 注意:この方法を使用する際には、ターミナルリンクを取り外す必要があります。



スピーカーの使用

スピーカーのはじめての使用

お買い上げいただいたスピーカーで通常の音楽を再生し、低～中音量で約50～70時間動作させます。また、再生が70時間を超えても、音の改善が継続することもあります。

慣らし運転は、自然に時間をかけて行うことができます。パフォーマンスは高級ワインのように、時間とともに熟成されていきます。

別の方法として、ラウドスピーカーを継続的にループで動作させたい場合は、ラウドスピーカーの向きを合わせて配置することで可聴ボリューム/存在感を低くすることができます。こうすることで、ドライバー/ツイーターが直接整列し、可能な限り近づきます。次に、ラウドスピーカーの一つをノーマル（同じ位相）になるように、プラスとプラス、マイナスとマイナス（赤と赤、黒と黒）にアンプを接続します。もう一つのラウドスピーカーは、逆相となるように、マイナス入力に対してプラス、プラス入力に対してマイナスに接続します。

ポート栓

ラウドスピーカーを、9平方メートル（80平方フィート）の小さな部屋、または、強化低音反応を増幅できる部屋に配置する場合には、影響を受けるスピーカーでポート栓を使用することをお勧めします。ただし、栓を適用する前に、ラウドスピーカーの様々な配置を試されることをお勧めします。パフォーマンスを最適化するためにも、ラウドスピーカーは壁や部屋の隅に近づけ過ぎないようにすることが重要です。

スピーカーの位置が部屋の美観やレイアウトにより決定され、低音が強調されている場合や、後ろの壁（棚置き、キャビネットへの配置、壁近くのスタンドへの配置など）近く（5ページの最低距離未満）に配置されている場合は、付属のポート栓をポートに付けることをお勧めします。Platinum 300 3Gのように、ポートが2つあるスピーカーの場合でも、スピーカーごとに使用できるポート栓は1つのみです。

これにより、強調され過ぎた低音の「ブーム」が低減され、ラウドスピーカーがこれらの環境下で最適なパフォーマンスを発揮できるようになります。この「ブーム」は通常、ラウドスピーカーからのベースエネルギーが部屋のモードを「強く刺激」し、特定の周波数または周波数の値で強調効果を生じさせる場合に発生します。

ポート栓を取り付けると、全体的な低音の伸びは低減されませんが、周波数を招請するポートまわりの低音のエネルギー/出力は低下します。これによって、低音の鮮明さ、明白なアジリティを向上させると同時に、低音の「ブーム」を低減させる効果があります。

すべての状況において、まず試されることを強くお勧めします。

キャビネットのお手入れ

キャビネットは、やわらかい布または超極細繊維の布を使用した通常のクリーニングを行うことで高い光沢性を保つことができます。キャビネット表面のつやを回復させるには、高質・摩擦防止の自動車用ワックスまたは艶出し剤を使用することができます。ドライブユニットは、通常以上のクリーニングが必要な場合に、湿った布でのみクリーニングを行うようにしてください。

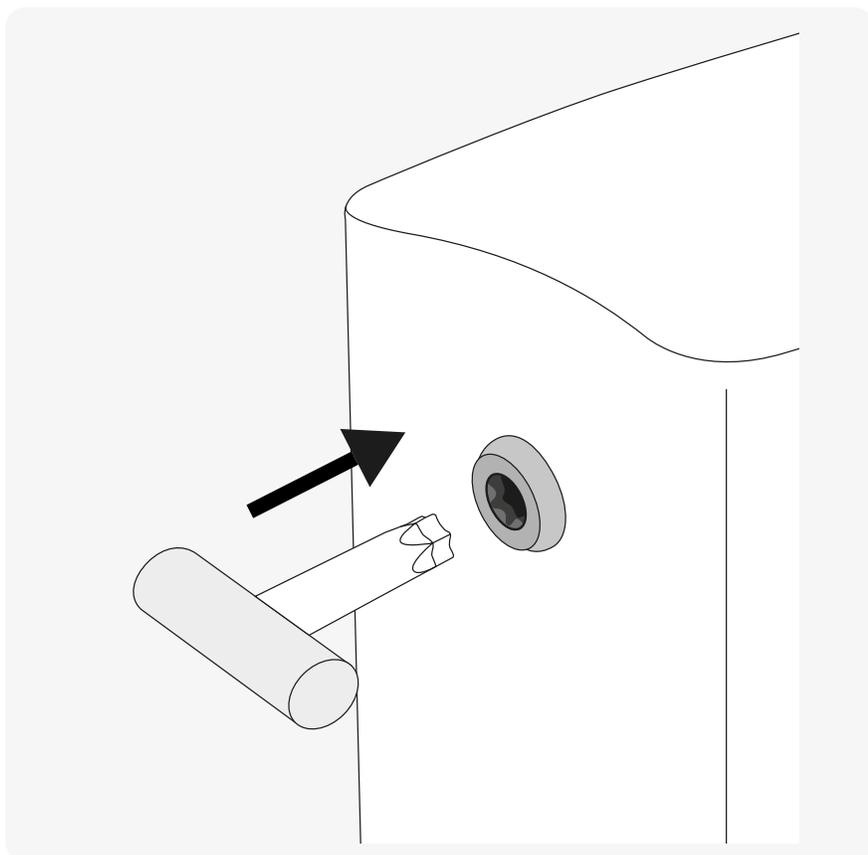
Platinum Series 3Gスピーカーには、溶剤や強力な洗剤/艶出し剤を使用しないでください。特定のクリーニング剤を使ってよいかどうか迷われた場合には、キャビネットの目立たない部分で洗剤をテストし、目立つ部分へ使用する前に数日置いてみてください。

保持ボルト調整

各ユニットは、キャビネットのリア側からボルトスルードライバー（1本）で固定されています。各ボルトは、閉めることで、キャビネットの剛性を高めつつユニット/キャビネット間の共鳴を排除するためにドライバーとフロントバッフルを効果的に切り離す役も果たします。

注意：

時間が経過するにつれてこのボルトが緩んだり、輸送中に緩んだ場合は、付属のトルクスビットドライバーを使って締め直してください。軽い力でボルトが止まるまで回し、その後、増し締めとして4分の1回転するだけで結構です。



Specifications

Model	Platinum 300 3G	Platinum 200 3G	Platinum 100 3G	Platinum C250 3G
形式	3-way・バスレフ	3-way・バスレフ	2-way・バスレフ	3-way・密閉型
周波数特性(-6dB)	17 Hz - >60 kHz	23 Hz - >60 kHz	28 Hz - >60 kHz	30 Hz - >60 kHz
能率(2.83v @ 1m)	88 dB	88 dB	85 dB	88 dB
インピーダンス	4 Ω	4 Ω	4 Ω	4 Ω
定格入力	400 W	300 W	150 W	300 W
推奨アンプ出力	200-800 W	150-600 W	75-300 W	150-600 W
クロスオーバー周波数	LF/MF: 650 Hz MF/HF: 3 kHz	LF/MF: 825 Hz MF/HF: 3 kHz	LF/HF: 2.85 kHz	LF/MF: 850 Hz MF/HF: 3.5 kHz
ポートチューニング周波数	32 Hz	38 Hz	44 Hz	N/A
ユニット	MPD III ツイーター×1 100mm RDT III Mid ドライバー×1 200mm RDT III Bass ドライバー×2	MPD III ツイーター×1 100mm RDT III Mid ドライバー×1 150mm RDT III Bass ドライバー×2	MPD III ツイーター×1 150mm RDT III Mid/Bass ドライバー×1	MPD III ツイーター×1 63mm RDT III Mid ドライバー×1 150mm RDT III Bass ドライバー×2
サイズ (W×H×D)	430 x 1132 x 525 mm (脚部/スパイク含む)	369 x 1042 x 454 mm (脚部/スパイク含む)	225 x 398 x 301 mm (D326 端子含む)	630 x 225 x 301 mm (D326 端子含む)
重量	53.6 kg/台	35.8 kg/台	15.2 kg/台	25.4 kg/台
仕上げ	Piano Ebony (PE) , Piano Black (PB) , Pure Saten White (SW)			

Monitor Audio 常により洗練されたデザイン・設計を目指し、製品の改善に努めています。
そのためデザイン、性能等、事前の予告なしに変更される場合がございます。
また本製品の輸送に必要な購入時の箱・緩衝材は、必ず保管しておいてください。

保証

本機の保証は株式会社ナスペックが行います。
詳しくは株式会社ナスペックのHP/サポートページ (<http://naspecaudio.com/support/>) をご確認ください。
修理の際は、販売店または株式会社ナスペックにお問合せください。

※修理についてのご質問・送り先は、下記 本社/サービスセンターにてお受け致しております。
詳しいお問い合わせは **Monitor Audio** 日本輸入総代理店 株式会社ナスペックまで

NASPEC
CORPORATION

株式会社ナスペック
〒500-8386 岐阜県岐阜市藪田西 1-4-5
HP : <http://naspecaudio.com>

TEL : 058-215-7510
FAX : 058-268-7118
☎0120-932-455
e-mail : support@naspecaudio.com